（様式１）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ０４２	**提案機関名**	農業技術センター普及指導部

要望問題名　農薬登録拡大による落花生コガネムシ防除

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

落花生のコガネムシ防除として一般的に実施されているのは、殺虫剤の播種前土壌混和であるが、生育後期に発生するコガネムシの被害は抑えられていない。特に県内の主力品種‘改良半立’は１０月に収穫する晩生品種のため、コガネムシの被害を受けやすい。生育中期にコガネムシに登録のある殺虫剤を施用すれば効率的なコガネムシ防除が期待できるが、現在そのような剤は無い。

一方トクチオン細粒剤Ｆは、播種前土壌混和によるコガネムシ幼虫と、収穫６０日前まで施用によるヒョウタンゾウムシに対して、農薬登録がある。

そこで、トクチオン細粒剤Ｆの落花生生育中期施要のコガネムシ防除効果確認と登録拡大を要望する。

参考：施用時期としては、中耕を行う７月上旬が適する。

対象地域：県下落花生栽培地　　面積：２２０ｈａ

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	農業環境研究部

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

当センターの農薬登録拡大のための労力・試験費用は限られているため、登録拡大要望に順位をつけて、順番に試験を実施しています。基本的には、登録農薬が皆無である作物などの農薬登録の必要性の高い作物が優先されます。また薬効試験の難易度を考慮し、試験の実施に困難が予想される場合は、薬効試験を行うことはできません。

当センターにおいてはコガネムシ類発生ほ場がないため、試験には現地のコガネムシ類発生ほ場の利用が考えられますが、この場合、らっかせいのコガネムシ類へのトクチオン細粒剤Ｆの土壌表面散布後土壌混和処理は適用外使用となるため、生産物については買取り等の処置が必要となり、その費用の確保が必要となります。また、コガネムシ類への薬剤の防除効果の正確な判定のためには土中のコガネムシ幼虫の種同定や個体数調査といった調査が必要であり、労力負担も大きいものとなります。従って現状では当センターでの登録拡大への取り組みは困難と判断いたしました。

らっかせいのコガネムシ類の防除技術につきましては新農薬をはじめとして効果的な防除方法の情報が入り次第、随時お繋ぎするように致します。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	